

基盤地図情報作成検査ツール バージョン 1.26 更新記録

2009/03/28

有限会社ジオ・コーチ・システムズ

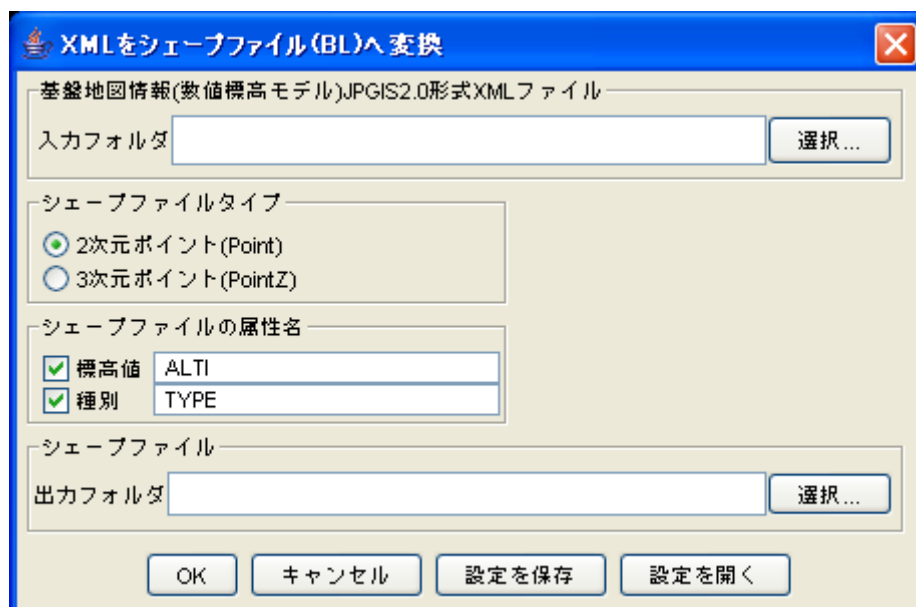
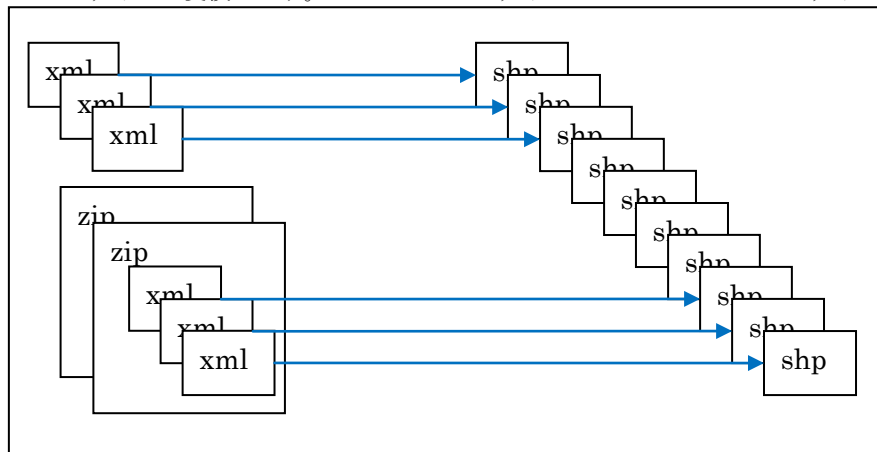
<http://www.geocoach.co.jp/>

info@geocoach.co.jp

新メニュー[基盤地図情報 DEM 変換]を追加しました。基盤地図情報(数値標高モデル)の JPGIS2.0 形式の xml および zip ファイルを各種ファイルにコンバートします。

1. XML をシェープファイル(BL)へ変換

基盤地図情報(数値標高モデル)の 5m メッシュと 10m メッシュの JPGIS2.0 形式の xml および zip ファイルを緯度経度のポイントシェープファイルに変換します。ひとつの XML ファイルがひとつのシェープファイルになります。



入力フォルダ

基盤地図情報(数値標高モデル)の JPGIS2.0 形式の xml および zip ファイルのフォルダを指定します。サブフォルダも参照し、指定されたフォルダ以下の 5m メッシュ・10 メッシュの xml および zip ファイルをすべてリードします。

シェープファイルタイプ

保存するシェープファイルのタイプを指定します。

シェープファイルの属性名

シェープファイルに出力する属性を指定します。属性名が指定できます。必ず一つは指定してください。

属性	型	バイト数	内容
種別	文字列	6	XML の DEM 構成点種別の文字列 「地表面」「表層面」「海水面」「内水面」「その他」
標高値	数値	7	標高値を小数点以下 2 桁で記録

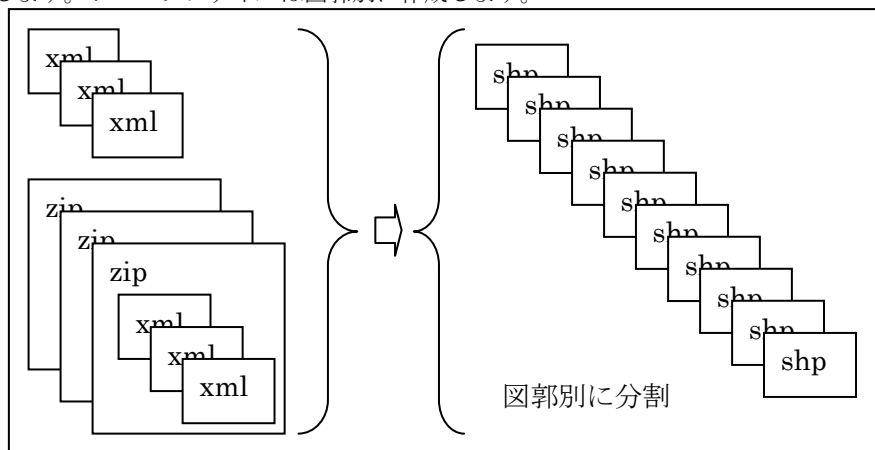
出力フォルダ

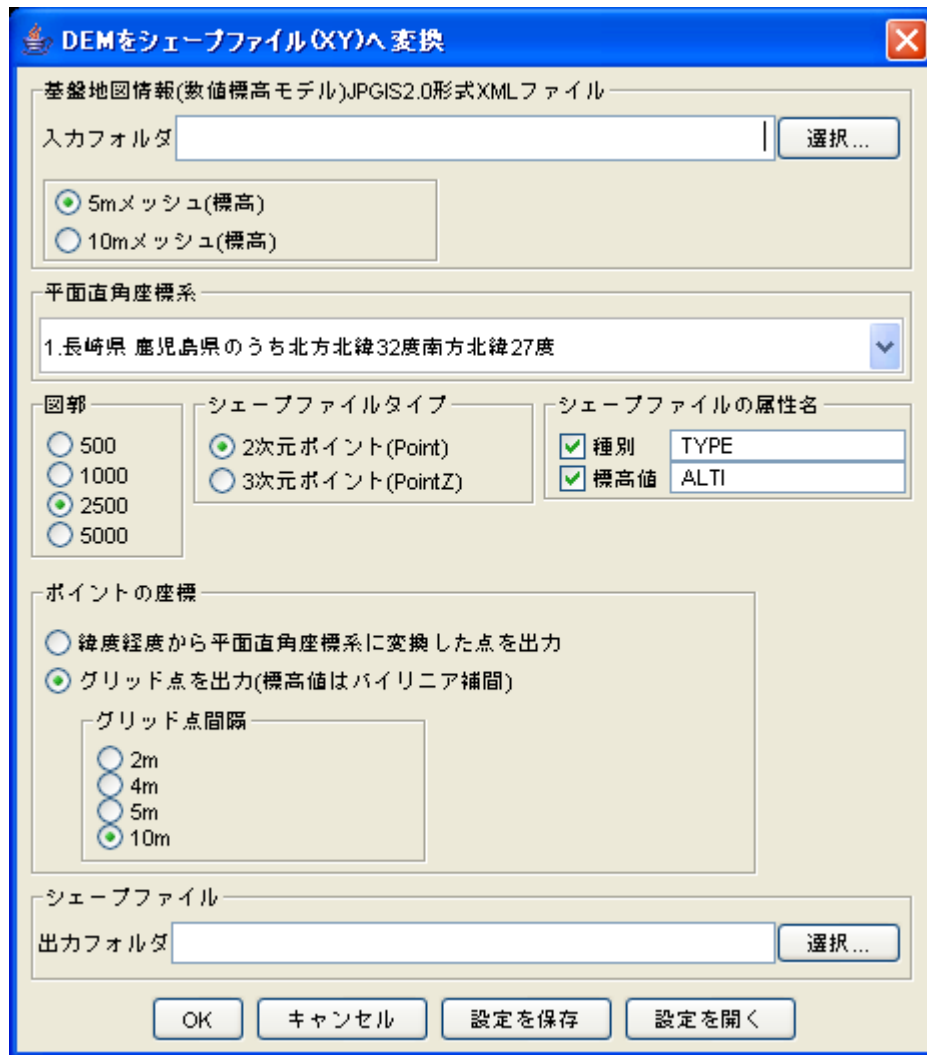
シェープファイルを作成するフォルダを指定します。XML ファイルと同じ名前のシェープファイルを作成します。

- シェープファイルの X 座標：経度（度単位）
- シェープファイルの Y 座標：緯度（度単位）

2. XML をシェープファイル(XY)へ変換

基盤地図情報(数値標高モデル)の JPGIS2.0 形式の xml および zip ファイルを平面直角座標系のポイントシェープファイルに変換します。シェープファイルは図郭別に作成します。





入力フォルダ

基盤地図情報(数値標高モデル)のJPGIS2.0形式のxmlおよびzipファイルのフォルダを指定します。サブフォルダも参照し、指定されたフォルダ以下の5mメッシュ・10メッシュのxmlおよびzipファイルをすべてリードします。従って、隣接する地域で同じ名前のxmlファイルがある場合でも、接合し、まとめて変換します。同じ緯度経度の点があり、標高値が異なる場合、後にリードした点の標高値を使います。

5mメッシュ(標高)

入力フォルダ以下のxmlファイルのうち、ファイル名が「FG-JPS-#####-##-##*.xml」となっているものを参照します。#は整数で*は任意の文字列です。基盤地図情報(数値標高モデル)の5mメッシュ(標高)のxmlを特定します。

10mメッシュ(標高)

入力フォルダ以下のxmlファイルのうち、ファイル名が「FG-JPS-#####-##-##*.xml」となっているものを参照します。#は整数で*は任意の文字列です。基盤地図情報(数値標高モデル)の10mメッシュ(標高)のxmlを特定します。5mメッシュと10mメッシュを併用して変換することはできません。

平面直角座標系

xml での座標は緯度経度で記録されています。変換する平面直角座標系を指定します。

図郭

指定された地図情報レベルで図郭を分けます。保存するシェープファイルは図郭別で、ファイル名は平面直角座標系番号+図郭名になります。

シェープファイルタイプ

保存するシェープファイルのタイプを指定します。

シェープファイルの属性名

シェープファイルに出力する属性を指定します。属性名が指定できます。必ず一つは指定してください。

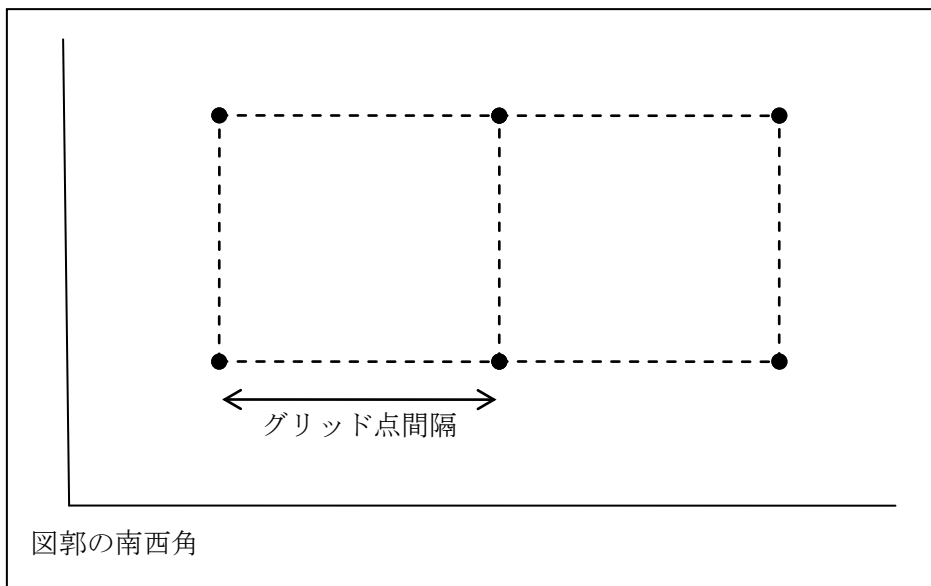
属性	型	バイト数	内容
種別	文字列	6	XML の DEM 構成点種別の文字列 「地表面」「表層面」「海水面」「内水面」「その他」 バイリニア補間法で標高値を計算する場合、4 隅の種別が同じ場合、その種別を記録し、異なる場合は空白になります。
標高値	数値	7	標高値を小数点以下 2 桁で記録

緯度経度から平面直角座標系に変換した点を出力

xml の点をそのまま平面直角座標系に変換した座標をシェープファイルのポイントの座標にします。

グリッド点を出力(標高値はバイリニア補間)

平面直角座標系でのグリッドとしてシェープファイルのポイントを作成します。グリッド点の XY 座標から対応する緯度経度でバイリニア補間(Bilinear Interpolation、共一次内挿法)で標高値を計算します。3 次元のシェープファイル(PointZ)で保存する場合、計算値をそのまま Z 値にします。囲む 4 点がない場合、グリッド点は出力しません。南西角のグリッド点は図郭の南西角からグリッド点間隔の半分だけ離れています。

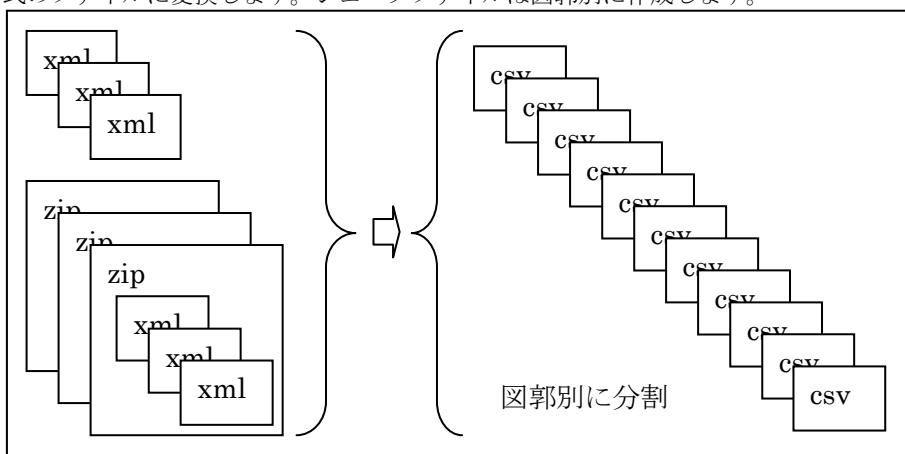


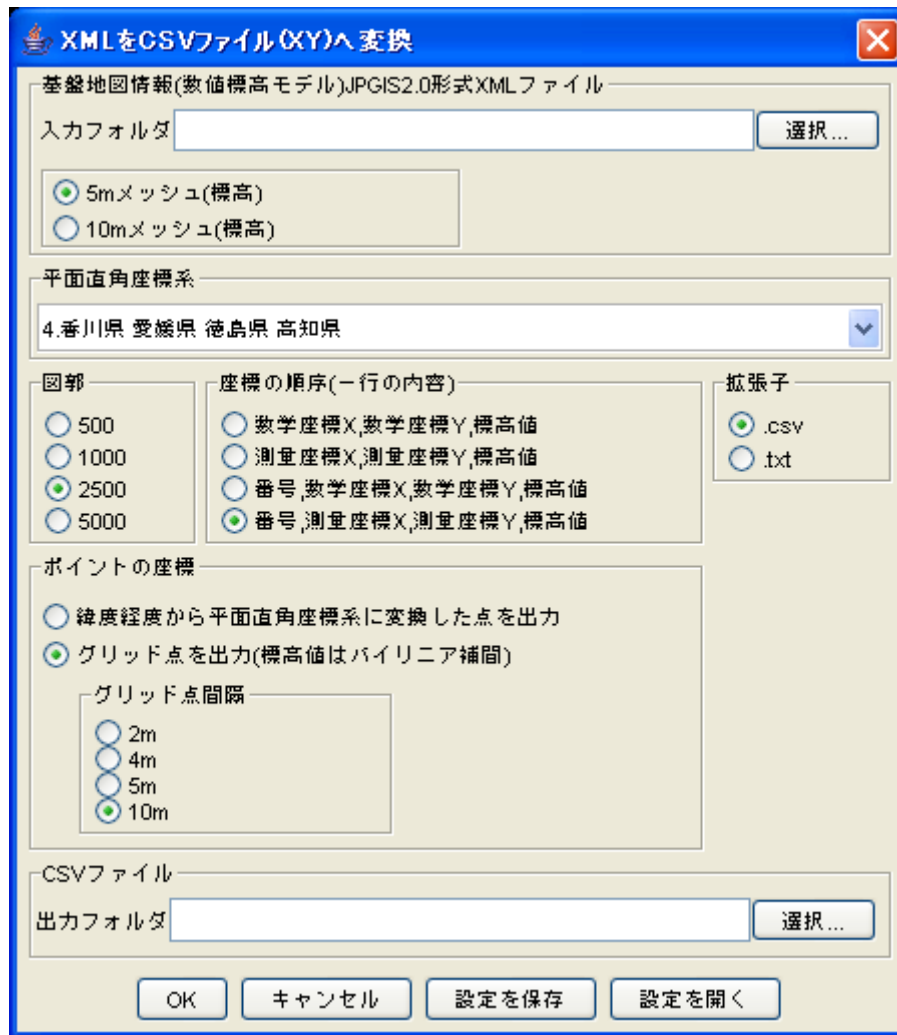
出力フォルダ

シェープファイルを作成するフォルダを指定します。複数のシェープファイルを保存し、ファイル名は「04HE822.shp」など平面直角座標系番号+図郭名になります。

3. XML を CSV ファイル(XY)へ変換

基盤地図情報(数値標高モデル)の JPGIS2.0 形式の xml および zip ファイルを平面直角座標系の CSV (Comma-Separated Values)形式のファイルに変換します。シェープファイルは図郭別に作成します。





入力フォルダ

基盤地図情報(数値標高モデル)のJPGIS2.0形式のxmlおよびzipファイルのフォルダを指定します。サブフォルダも参照し、指定されたフォルダ以下の5mメッシュ・10メッシュのxmlおよびzipファイルをすべてリードします。従って、隣接する地域で同じ名前のxmlファイルがある場合でも、接合し、まとめて変換します。同じ緯度経度の点があり、標高値が異なる場合、後にリードした点の標高値を使います。

5mメッシュ(標高)

入力フォルダ以下のxmlファイルのうち、ファイル名が「FG-JPS-#####-##-##-*.xml」となっているものを参照します。#は整数で*は任意の文字列です。基盤地図情報(数値標高モデル)の5mメッシュ(標高)のxmlを特定します。

10mメッシュ(標高)

入力フォルダ以下のxmlファイルのうち、ファイル名が「FG-JPS-#####-##-*.xml」となっているものを参照します。#は整数で*は任意の文字列です。基盤地図情報(数値標高モデル)の10mメッシュ(標高)のxmlを特定します。5mメッシュと10mメッシュを併用して変換することはできません。

平面直角座標系

xml での座標は緯度経度で記録されています。変換する平面直角座標系を指定します。

図郭

指定された地図情報レベルで図郭を分けます。保存する CSV ファイルは図郭別で、ファイル名は平面直角座標系番号+図郭名になります。

座標の順序(一行の内容)

1 行に 1 点を記録します。列はカンマ「,」で区切ります。座標値などを記録する順番を選択します。番号を付ける場合、各ファイル 1 からの連番になります。

拡張子

保存するファイルの拡張子「.csv」か「.txt」を指定します。「.txt」でも内容は CSV で、カンマ「,」でデータを区切ります。

緯度経度から平面直角座標系に変換した点を出力

xml の点をそのまま平面直角座標系に変換した座標を CSV ファイルのポイントの座標にします。CSV ファイルの XY 座標は小数点以下 3 桁で記録します。標高値は xml で記録されている桁数です。

グリッド点を出力(標高値はバイリニア補間)

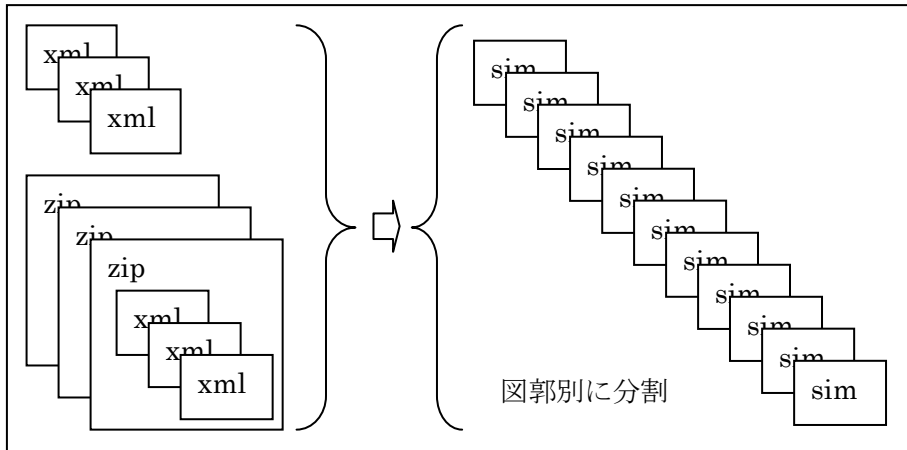
平面直角座標系でのグリッドとしてシェープファイルのポイントを作成します。グリッド点の XY 座標から対応する緯度経度でバイリニア補間(Bilinear Interpolation、共一次内挿法)で標高値を計算し、小数点以下 2 桁で記録します。囲む 4 点がない場合、グリッド点は出力しません。南西角のグリッド点は図郭の南西角からグリッド点間隔の半分だけ離れています。

出力フォルダ

CSV ファイルを作成するフォルダを指定します。複数の CSV ファイルを保存し、ファイル名は「04HE822.csv」「04HE822.txt」など平面直角座標系番号+図郭名になります。

4. XML を SIMA 共通フォーマットファイルへ変換

基盤地図情報(数値標高モデル)の JPGIS2.0 形式の xml および zip ファイルを平面直角座標系の SIMA 共通フォーマットファイルに変換します。SIMA 共通フォーマットファイルはバージョン 1 の座標データのみを含み、図郭別に作成します。



XMLをSIMA共通フォーマットファイルへ変換

基盤地図情報(数値標高モデル)JPGIS2.0形式XMLファイル

入力フォルダ

5mメッシュ(標高)
 10mメッシュ(標高)

平面直角座標系

4.香川県 愛媛県 徳島県 高知県

図郭

500
 1000
 2500
 5000

座標データの点名称

省略する
 ファイル毎に連番
 全ファイルで連番

ポイントの座標

緯度経度から平面直角座標系に変換した点を出力
 グリッド点を出力(標高値はバイリニア補間)

グリッド点間隔

2m
 4m
 5m
 10m

SIMA共通フォーマットファイル

出力フォルダ

座標データの点名称

座標データの点名称の内容をしていします。

省略する	点名称を省略します
ファイル毎に連番	ファイル毎に1から連番をつけます
全ファイルで連番	全ファイルで1から連番を付けます。

緯度経度から平面直角座標系に変換した点を出力

xml の点をそのまま平面直角座標系に変換した座標を SIMA 共通フォーマットファイルの座標にします。XY 座標は小数点以下 3 桁で記録します。標高値は xml で記録されている桁数です。

グリッド点を出力(標高値はバイリニア補間)

平面直角座標系でのグリッドとしてシェープファイルのポイントを作成します。グリッド点の XY 座標から対応する緯度経度でバイリニア補間(Bilinear Interpolation、共一次内挿法)で標高値を計算し、小数点以下 2 桁で記録します。囲む 4 点がない場合、グリッド点は出力しません。南西角のグリッド点は図郭の南西角からグリッド点間隔の半分だけ離れています。

座標データの点番号は 1 から連番をつけます。

他の設定項目はメニュー「XML を CSV ファイル(XY)へ変換」と同じです。